



稲敷市



Salmon Arm
サーモンアーム市 (カナダ)

姉妹都市

— 世界をつなぐ笑顔と勇気 —

No.21
2015. 12



サーモンアーム市 友情の門にて

掲載内容

第9回稲敷市親善大使海外派遣事業
第6回姉妹都市交流委員会懇談会
先輩団員の今 — 親善大使海外派遣団に参加して —
平成28年3月親善訪問団のホストファミリー募集について
今後の派遣・受入の日程について



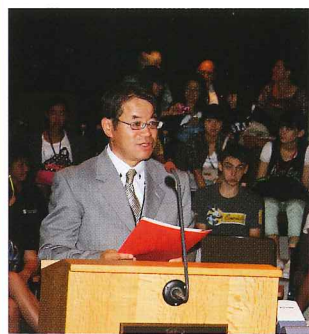
稲敷 いなのすけ

○姉妹都市交流事業（海外派遣・受入）の詳細は稲敷市ホームページ

<http://www.city.inashiki.lg.jp/index.html>（市政→プロフィール→姉妹都市・国際交流事業）

○稲敷市姉妹都市交流委員会 会員募集！ お問い合わせは市民協働課内事務局へ：029-892-2000

●稲敷市・稲敷市姉妹都市交流委員会●



本物の
「おもてなし」
あずま西小学校 校長
団長 山本照夫

11日間の体験は、私にとっては期待より不安の方が先行するものでした。団長として、20名の団員の健康や安全面に配慮できるだろうか、そんな思いが強かったからです。しかし、現地サーモンアーム市で皆様から心温まる「おもてなし」を受け、心が癒され、いつの間にかその不安がかき消されました。これぞ本物の「おもてなし」と感じました。異国の地で感じた本物の「おもてなし」を今後の学校経営に生かしていきたいと思ひます。

ずっと繋がっていこう

—第9回稲敷市親善大使海外派遣事業に参加して—

派遣期間：平成27年8月16日（日）～26日（水）

第9回派遣団名簿

団長	山本 照夫	（稲敷市立あずま西小学校 校長）
指導員	大久保 朗子	（稲敷市立新利根中学校 教諭）
	飯塚 卓也	（稲敷市姉妹都市交流委員会会員）
団員	高村 洸大	（高3）
	遠藤 晃季	（中3）
	中村 友香	（中2）
	宮本 麻衣	（中2）
	長谷川 七海	（中3）
	黒田 涼	（中2）
	新里 真加	（中1）
	黒田 遥香	（高2）
	原田 敬也	（中2）
	石井 美歩	（中1）
	平山 翔太	（中2）
	椿 楓	（中3）
	板橋 京	（中2）
	宮本 愛弓	（中1）
	渚 夏葉	（中3）
	朝比 健生	（中2）
	内田 陽子	（中1）
	永長 美津希	（中3）
	新里 悠真	（中2）
	黒田 七海	（中2）

派遣時の主なスケジュール

- ・対面式
- ・「友情の門」見学
- ・市庁舎訪問
- ・各種アクティビティ
- ・ホストファミリーとの交流
- ・ファーム見学
- ・ラフティング
- ・自然散策
- ・さよならパーティー
- ・レイクルイーズ等観光

第6回姉妹都市交流委員会懇談会

10月9日、平成27年度稲敷市親善大使海外派遣団報告会並びに解団式が行われ、その終了後、交流委員会主催による派遣団員と交流委員会会員による懇談会を開催しました。派遣団員からは、「ホストファミリーが優しく受け入れてくれた。」「もっと長い期間お世話になりたかった。」などの感想がありました。また、今回の体験を通じて「外国の方が困っていたら助けてあげたい。」「英語の勉強をがんばりたい。」などの目標も聞かれました。

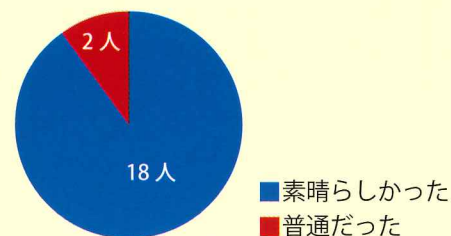


派遣団員のアンケート結果（抜粋）

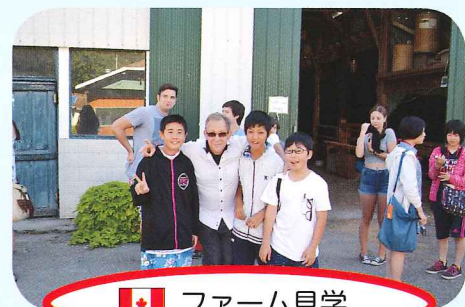
Q. 派遣事業への応募理由は？



Q. サーモンアーム市の印象は？



🇨🇦 英語でスピーチ



🇨🇦 ファーム見学



🇨🇦 現地スタッフと一緒に



🇨🇦 屋外でランチ



🇨🇦 さよならパーティーでダンス



🇨🇦 別れのひとこま



🇨🇦 サーモンアーム市庁舎にて



🇨🇦 ラフティング！



🇨🇦 Tシャツ作り



🇨🇦 カヌー体験



団員 黒田 遥香

今回のホームステイを通して、私はたくさんのことを学び、貴重な体験をすることができました。思い返せば、日本を飛び立つ前は全てが不安で仕方がありませんでした。しかし、カナダの優しさにふれ、サーモンアーム市が大好きになったとともに、改めて家族の大切さを感じました。このホームステイに参加して、私にはとても大切で大好きな場所ができました。だから私は、これからも英語の勉強に励み、またサーモンアーム市を訪れたいと思ひます。この様に考える機会を与えてくれた関係者の方々、そして家族に感謝します。

団員 平山 翔太

今回のホームステイは、私の海外に対するイメージを180度変えるものでした。今までは英語力に自信がなく、外国に行ってもコミュニケーションをとることなんてできないと思っていました。しかし、派遣事業に参加して、英語力は必要だけど、一番大切なのは一生懸命相手に伝えよう・相手の気持ちを汲み取ろうという気持ちだと思うようになりました。これからは今回の経験を生かしてもっと英語の勉強を頑張って、英語を上達させて家族と一緒に外国に行きたいです。また、自分がカナダのみなさんに助けて貰ったように、今度は自分が日本で困っている外国の方を助けてあげたいと思ひます。

団員 宮本 愛弓

今回の親善大使に参加したきっかけは友達や家族に勧められたのと、自分自身を少しでも変えてみたい、もっと広い世界を見てみたいという思いからでした。今回、ホームステイに参加して、自然あふれるサーモンアームの魅力、そこに住む人たちのやさしさを学ぶことができました。ホームステイ先での会話や、人とのふれあいを通して、ずっと繋がっていったらいいなと思ひます。国や言葉にとらわれずに自分からコミュニケーションを取っていくことの大切さを知ることができました。そして、私もホストとして受入ができた、自分がしてもらって嬉しかったことを自分もできるようにし、日本の魅力を伝えていきたいです。

—保護者の声—

「派遣、受入れ事業に参加して」

我が家では、2人の娘が中学生の時に派遣事業に参加し、受入れ事業にもホストファミリーとして1度参加しました。娘達にとっては初めての海外でとても心配でしたが、帰国した娘達の顔を見て、思い切って参加させて本当に良かったと思ひました。日本とは全く違う環境での、様々な素晴らしい経験は、娘達の将来に必ずプラスになることと思ひます。受け入れについても、初めは何を話せば良いのか心配でしたが、実際に受け入れてみると、可愛い娘が一人増え、あっという間の楽しい毎日でした。「文化の違いも言葉の違いも、何とかできるんだ！」と実感でき、ホストファミリーとしての経験も素晴らしいものになりました。

石井みゆき

新しい交流を目指して

稲敷市姉妹都市交流委員会

副会長 矢崎 克実



今年度の青少年親善大使として20名の中学生・高校生が今年8月サーモンアーム市へ山本照夫団長他2名の引率者と共に訪問してくれました。

これまでの交流と異なり、平成26年度の稲敷市への受け入れがなくなり、初めて派遣が続く形になりました。

にもかかわらず、各団員ともカナダの雄大な自然に触れ、ホストファミリーの皆さんの心温まるおもてなしを受け、日本で味わうことのできない体験ができたそうです。

そして、サーモンアームの友達への心の温かさや家族とのつながりの大切さ等を一人一人がしっかりと学んでくれました。それを、これからの人生に生かしていただければ幸いです。

私は、4年前の東日本大震災のときに遠くカナダのサーモンアーム市の皆さんが差し伸べてくれた熱い思いやりを忘れられません。

この交流を通して、遠くカナダのサーモンアーム市と私達の稲敷市が今までよりも深い友好親善のきづなの一歩となってくれることを望みます。

親善大使海外派遣事業及び 親善訪問団受入の日程について

派遣 受入

27年度	H27.8 派遣実施済	H28.3 受入予定
28年度	なし	なし
29年度	H29.8 派遣予定	H30.3 受入予定
30年度	なし	なし

派遣事業における個人負担について

親善大使海外派遣事業の派遣費用は、概ね30万円です。派遣費用の半分（上限額15万円）を稲敷市より補助となりますので、実質約15万円程度の個人負担となります。

ホストファミリー募集のお知らせ

姉妹都市「カナダ・サーモンアーム市」からの訪問団が、平成28年3月24日（木）～31日（木）に来市します。サーモンアーム市の子どもたちをホームステイさせていただける「ホストファミリー」を募集します。受け入れに際しては、特に個室やベッド、洋食などを用意する必要はありません。一般的な日本家庭での生活体験を楽しむにきて来ますので、気軽に友達として接してください。身近な国際交流を体験できる絶好のチャンスです！

詳しくは広報いなしき12月号、または市役所市民協働課へお問い合わせください。

交流委員会広報委員

山本 彰治（委員長）、塚本 みち子（委員）、倉田 九豪（委員）

先輩団員の今 —親善大使海外派遣団に参加して—

1997年派遣団員 北見知佳

私がサーモンアーム市でホームステイを経験したのは、今から18年も前のことになります。サーモンアーム市は美しい街でした。ホストファミリーと過ごした時間を、そしてカナダの雄大な自然を、30歳を過ぎた今でも時折思い返すことがあります。

この経験が自分の人生に影響を与えたとか、そういう仰々しいことは分かりません。けれどホームステイを通じて、当時の私は「百聞は一見に如かず」を強く実感しました。目に映る日本にはない景色が、現地の方々との交流が、10代の自分にとってかなり刺激的で心躍るものであったこと。そしてそのような豊かな記憶が、未だきちんと自分の中に残っていること。それだけで十分幸せなことだと思っています。

2005年派遣団員 根本安里

中学・高校の授業で行われている英語教育では、文法や単語を重視していて本来の外国語を学ぶ楽しさが半減していると感じています。しかし、中学生の時にカナダへ派遣団員として参加したことで、異文化の人たちとの交流の楽しさや英語の重要性を知ることができました。

このことは高校生・大学生になっても忘れることはなく、英語を勉強するモチベーションを保つことに繋がりました。大学では「英語」という広い分野の中から留学を通して興味を持った異文化コミュニケーションを専攻し、ただ受け身で学んでいた英語から自ら発信する英語に変わっていききました。

社会人になると長い間休みをとって海外に行くことはできないので、学生の時にもっといろんな国や長期間行っておけばよかったと後悔するほどです。そんな私も今では姉妹都市交流委員会の会員となり、派遣事業などに協力できる立場になりました。恩返しの意味も込めて今度はみなさんが良い経験をできるよう頑張りたいと思います。

INFORMATION

会員募集！あなたも国際交流しませんか？

・姉妹都市交流委員会

親善大使海外派遣事業、親善訪問団受入れ事業など稲敷市の実施する姉妹都市（サーモンアーム市）との幅広い活動



に協力し、民間交流活動を展開しています。

問い合わせ・申込みは
市民協働課内事務局：
029-892-2000 まで

○姉妹都市交流事業の詳細は
稲敷市ホームページをご覧ください

稲敷市 姉妹都市交流

検索

編集後記

交流の時期の変更がありましたので、今号は派遣のみの記事となりました。その分、写真が多くなったほか、これまでとは構成も変わっています。そのおかげで、新しい試みもあります。これからも、海を越えての経験の素晴らしさ、カナダの姉妹都市のことをより深くご理解いただくために、工夫をしていきたいと思っています。

編集：稲敷市姉妹都市交流委員会広報委員・稲敷市役所市民協働課